

## 韓国映画「共犯者たち」は人ごとか？

標題は大阪日日新聞 1 月 19 日、相沢冬樹記者による「野分 大阪発・論点」。日本のメディアを考えるうえでも示唆に富み、前半だけでも紹介したい。

「記者は取材できないのが最大の苦痛」…韓国映画「共犯者たち」に出てくる言葉です。政権がテレビ局の人事に介入し、報道を思い通りに操った実態を描くドキュメントです。韓国の公共放送=KBS の調査報道チームは政権に不都合な事実を報じていましたが、解体され、記者たちは取材職を外され非制作部門へ異動させられました。チームを率いていた人物が語ります。「記者が現場を離れたら取材できない。最大の苦痛です」

その後、韓国 KBS では権力批判の番組が廃止され大統領広報番組が生まれたといます。その名も「こんにちは 大統領です！」大統領本人がカメラに向かって、いかにさまざまな人の言葉に注意を払っているかを語り、「今後も国民の皆さまの声に耳を傾け、さらに頑張ることを約束致します」と締める。提灯記事ならぬ提灯番組です。



民主主義を揺るがす事態ですが、私たちはこれを「対岸で起きたこと」と呑気に構えていられるでしょうか？ 政権のヨイショ報道は日本にありませんか？ 桜島を背景に安倍首相の自民党総裁選出馬表明を生中継し、スタジオで記者解説した NHK。去年 9 月の北海道地震では「16 人死亡 安倍首相」と、わざわざ首相名をスーパーに入れました。

そして新年、日曜討論で安倍首相が沖縄・辺野古への土砂投入を巡り「あそのサンゴは移している」と、事実と異なる発言をしても司会者は問いただすことなく、収録した発言をそのまま放送に出しました。この一連の流れは、韓国で起きたことと違いがあるのでしょうか？

もう 1 点、映画と日本の共通項があります。ほかならぬ私自身に起きたことです。政権に不都合な事実を報道したとたん記者を外され、非制作部門に異動となりました。去年 6 月のことです。私の異動は「官邸付度人事」などと一部で報じられて話題になりました。映画のセリフ通り、私は取材ができなくなることに最大の苦痛を感じ、31 年間勤めた NHK を辞めました。

昨年、相沢さんの講演を聴き、『安倍官邸 vs. NHK』を読み、安倍政権と NHK をめぐるリアルな話に引きつけられた。また話題の本をレポートで紹介したい。

じつは、「野分」を読んで韓国映画「共犯者たち」を知った。早速ネットで映画の予告編を観ると、メディアにとって衝撃的なシーンが続いていた。ぜひ映画を観たくなった。韓国だけでなく日本のメディア、とりわけ公共放送の現実に迫るためにも。



(2019 年 2 月 4 日)